

中学生・高校生も危機感！？ 中高生の定額給付金の使いみち

連日、論議が繰り広げられている『定額給付金』は、中高生にとっても、認知率が約9割と、注目の話題。

自身に配分される正しい金額を半数近くの中高生が認識しており、関心の高さを示している。

ただ、給付金への期待度は高いが、自分の手で自由に使えないだろう、と現実はそう甘くないことも認識。

自分が手にしても、使いみちは「預金」「学費・受験費用・参考書代」「生活費」など堅実。この厳しい情勢を、中高生ながらも肌身で感じており、危機感が中高生へも浸透していることが垣間見える結果となった。

電通リサーチ「中学生・高校生の定額給付金の使いみち調査」より

この度、株式会社電通リサーチ大阪支社（大阪市北区堂島、大阪支社長 片山雅文）は、関西（2府4県：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県）、関東（1都3県：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に居住する「中学生・高校生の男女」を対象に、「定額給付金の使いみち調査」を実施し、その結果をまとめましたので発表させていただきます。

実施期間は2009年2月1日（日）～2月4日（木）、調査手法は電通リサーチのモバイル調査システム（携帯電話調査法）を使い、有効な回答を1,000名から得られました。

【結果のまとめ】 「調査結果の概要」については次ページ以降を参照ください。

1. 定額給付金給付事業への中高生の認知率は84%と高い

政府が住民の生活支援と地域の経済対策に役立てるため、住民に定額の給付金を支給することを「知っている」中学生・高校生は50.8%、「大体のことは知っている」を含めると9割弱（87.2%）の認知率に達する。中学生（特に女子）の認知率が低いですが、それでも84.0%（女子中学生は81.2%）と高率。

2. 自分がもらえる給付金の正確な金額を知っている中高生は44%で関心は高い

自分がいくらもらえるかを「知っている」中学生・高校生は41.7%、「大体のことは知っている」を含めると7割強（71.8%）の認知率を示す。

地域別では、関西の認知率（69.6%）が関東（74.0%）よりやや低い。また、女子中学生の認知率も低い。

自分がもらえる給付金の金額を自由回答で求めたところ、「20,000円」と回答した中学生・高校生は4割強（43.8%）みられた。次いで多かった金額は「12,000円」（13.8%）。

平均金額は18,904円。

3. 本人分の給付金受け取り意向は高いが、現実はその甘くないことも認識

中学生・高校生に支給される給付金（20,000円）を本人が「全額受け取りたい」と思っている人は37.3%、「全額ではないが、一部を受け取りたい」（34.4%）を含めると7割強（71.7%）が受け取り意向を示す。

「全額」受け取り意向は高校生（特に男子）で高い。

世帯主が家族全員分を受け取ることになる給付金のうち、中学生・高校生の本人分を受け取ることが出来ると予想（家族1人ひとりに配分されると思う）する人は18.4%、「家族全員で使うと思う」（32.4%）「父母が預かり配分されないと思う」（23.5%）の方が高い比率を示す。

全額受け取りたいと思っている中学生・高校生のうち、自分に配分される（家族1人ひとりに配分される＋全額ではないが、一部は配分されると思う）と思っている比率はその半数。

4. 給付金を手にしても消費にまわすのは6割弱と使いみちは堅実

「飲食・レジャー」「洋服・ファッション」「趣味・スポーツ用品」「ゲーム機・ソフト」など直接消費にまわすという中学生・高校生は56.5%みられる。

一方、「預金」が26.0%、「学費」「生活費」にまわすは併せて13.0%みられ堅実な中学生・高校生像がうかがえる。

<お問合せ先>

株式会社 電通リサーチ 大阪支社
富山・中田 (06-6342-3333)

1. 定額給付金事業の認知状況

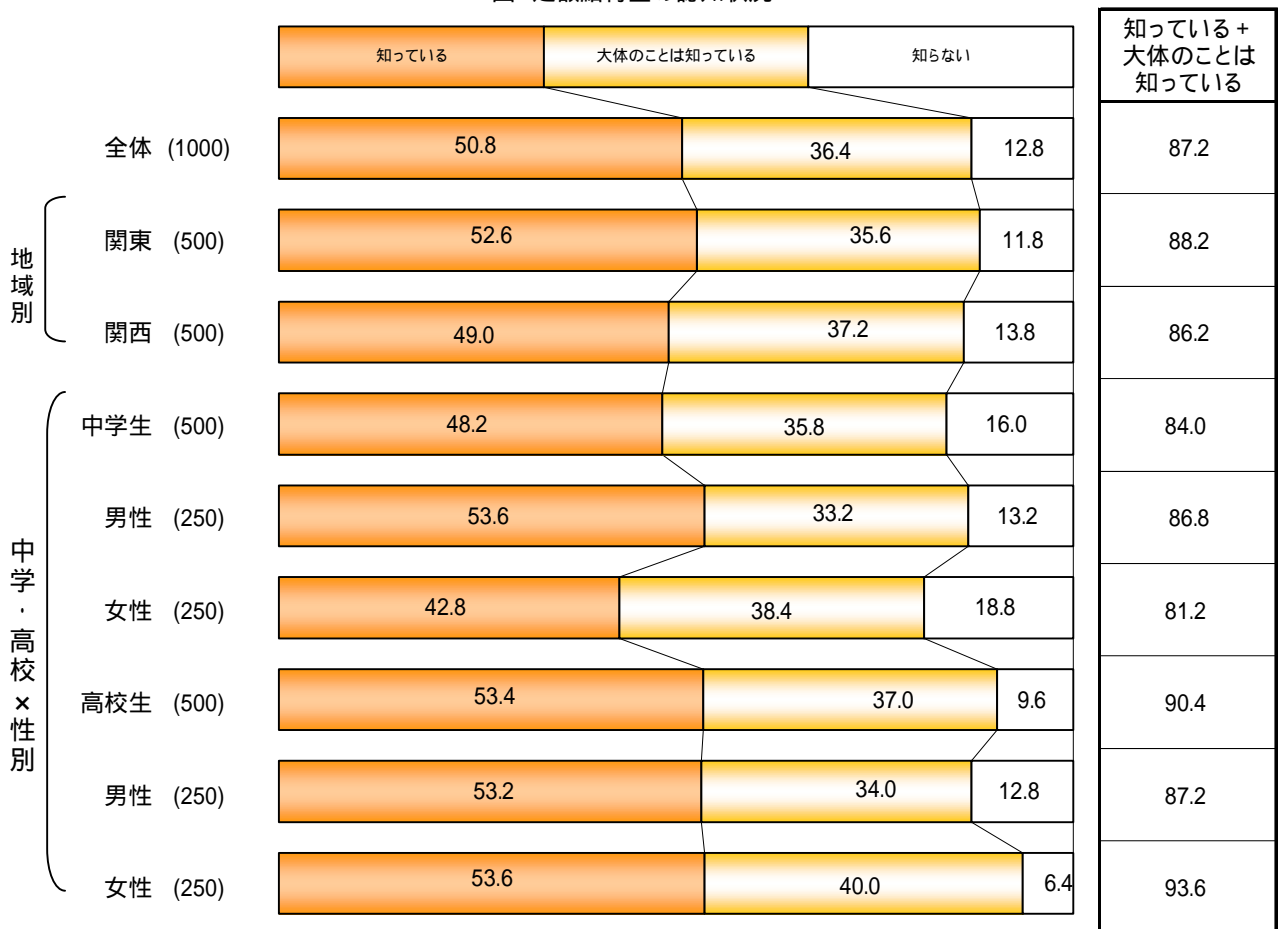
定額給付金事業の認知率は87.2%。

政府が住民の生活支援と地域の経済対策に役立てるため、住民に定額の給付金を支給(定額給付金給付事業)することを決定したことを「知っている」中学生・高校生は50.8%、「大体のことは知っている」(36.4%)を含めると、9割弱の認知率を示す。

* 地域別にはほとんど差がみられない。

* 性別では、女子中学生の認知率がやや低い。

図 定額給付金の認知状況



注) 数値は回収数(N)を100とした%

2. 給付金額の認知状況

自分がもらえる給付金額の認知率は71.8%。正確な給付金額を想起した人は4割強。

本人(中学生・高校生)がいくらもらえるかを「知っている」比率は41.7%、「大体のことは知っている」(30.1%)を含めると7割強の認知率を示す。

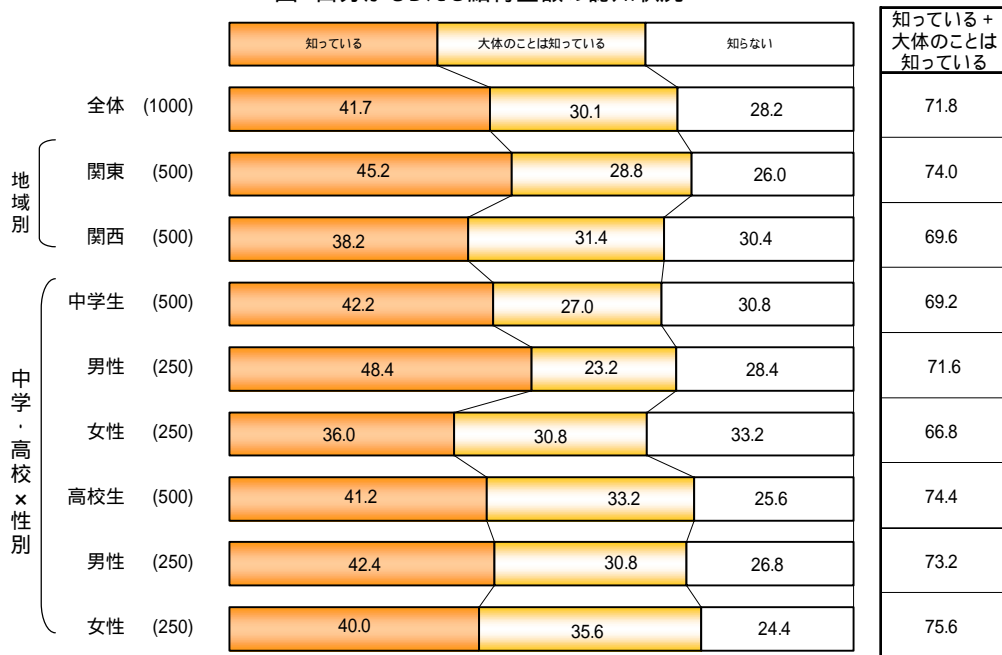
* 地域別では、関東(74.0%)の認知率が関西(69.6%)よりやや高い。

* 性別では、女子中学生の認知率が低い。

具体的な金額については、今回対象とした18歳以下の加算金額を含めた「20,000円」を回答する人(43.8%)が最も多く、次いで一般の給付金である「12,000円」(13.8%)が続く。
平均金額は18,904円。

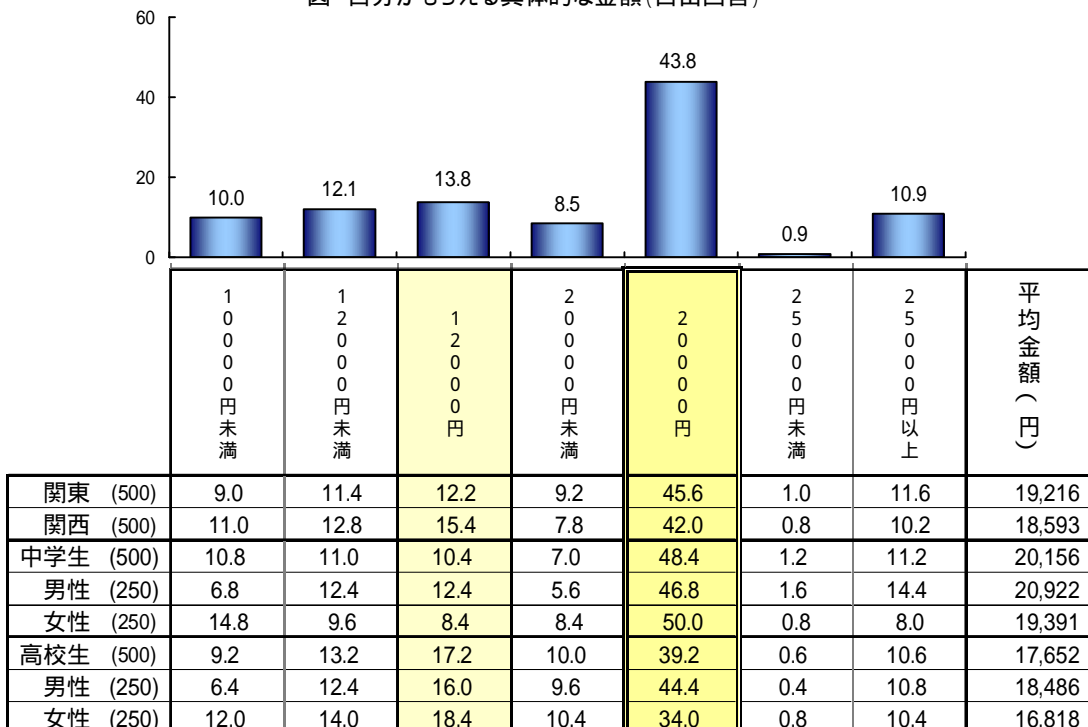
* 高校生(39.2%)より中学生(48.4%)の正解率がやや高い。

図 自分がもらえる給付金額の認知状況



注) 数値は回収数(N)を100とした%

図 自分がもらえる具体的な金額(自由回答)



注) 数値は回収数(N)を100とした%

3. 本人給付金の受け取り意向と世帯主からの配分予想

自分の分の給付金を受け取りたいとの意向を持つ中学生・高校生は7割強、その半数以上は自分には配分されないと考えている。

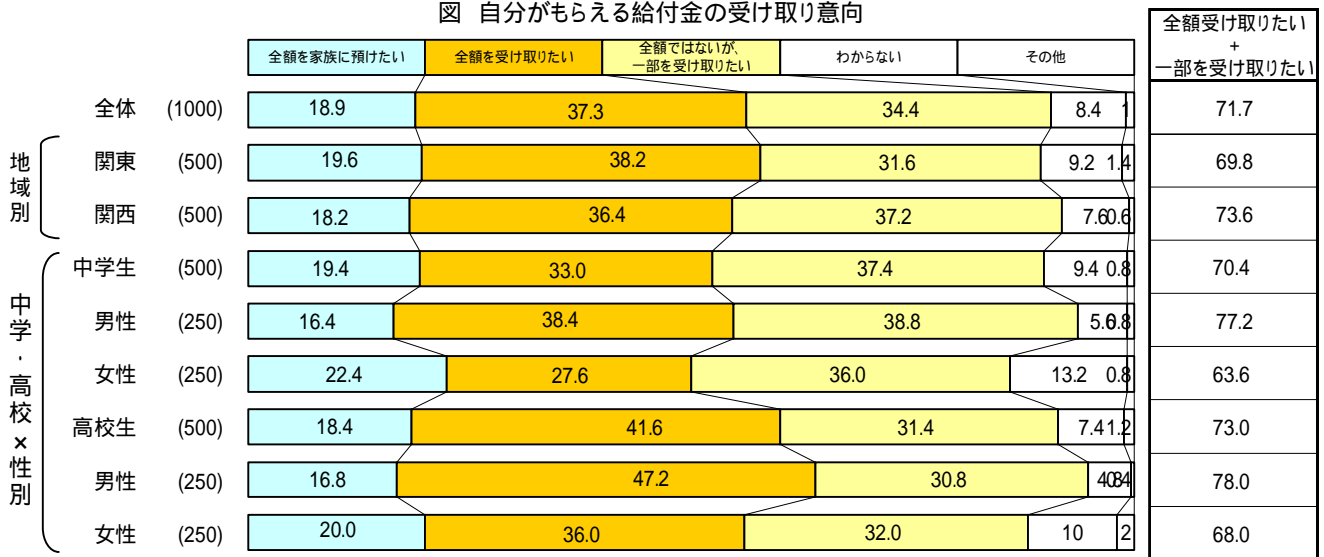
本人の給付金を「全額受け取りたい」と思っている人は37.3%、「全額ではないが、一部を受け取りたい」(34.4%)を含めると、7割強の人が受け取り意向を示す。

* 「全額」受け取り意向率は高校生、なかでも男子高校生で高い。

世帯主が受け取る給付金が「家族1人ひとりに配分されると思う」と考えている人は18.4%、「家族全員で使う」(32.4%)「父母が預かり配分されない」(23.5%)と考える中学生・高校生の方が多い。

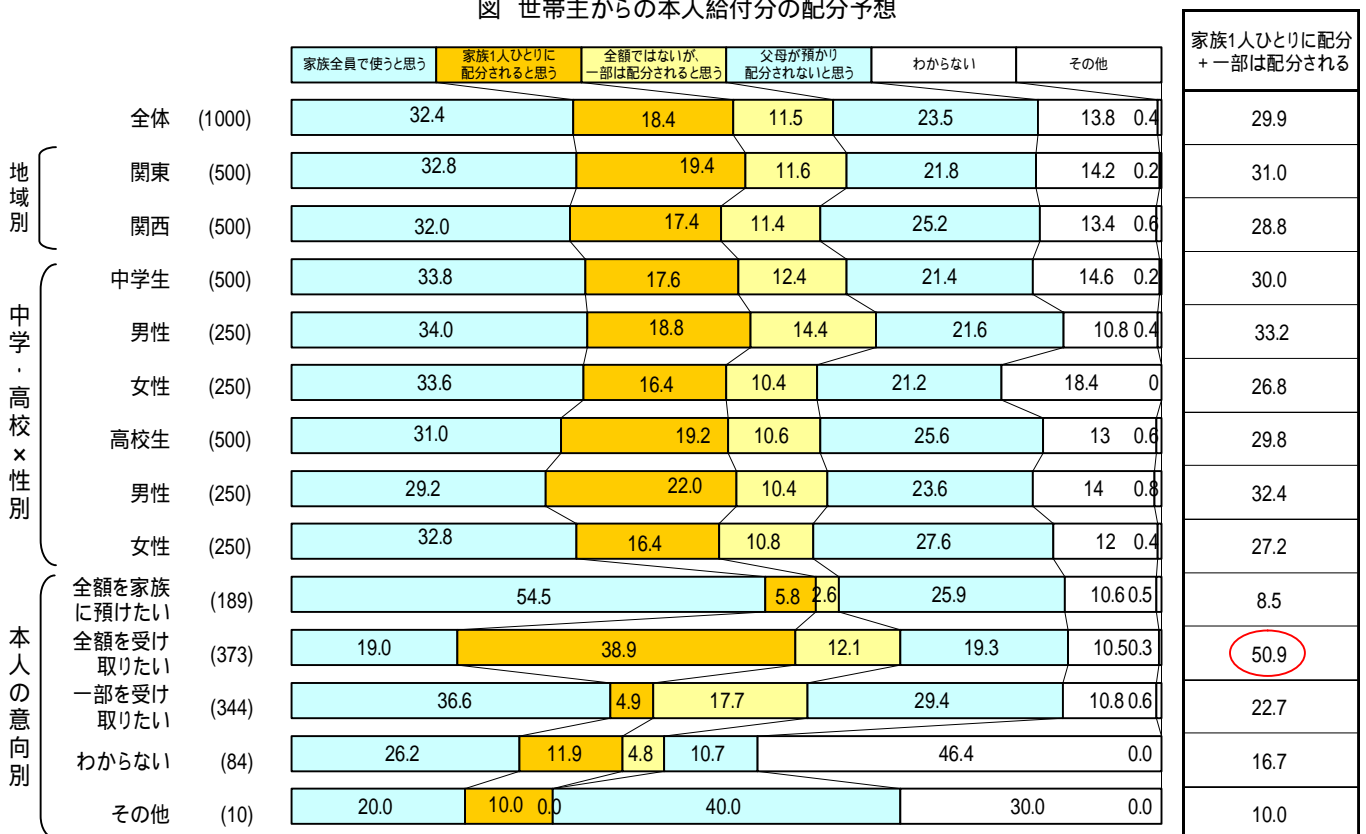
* 自分の分の給付金を受け取りたいとの意向を持つ中学生・高校生が自分に配分される(家族1人ひとりに配分+一部は配分)と考える率は約半数。

図 自分がもらえる給付金の受け取り意向



注) 数値は回収数(N)を100とした%

図 世帯主からの本人給付分の配分予想



注) 数値は回収数(N)を100とした%

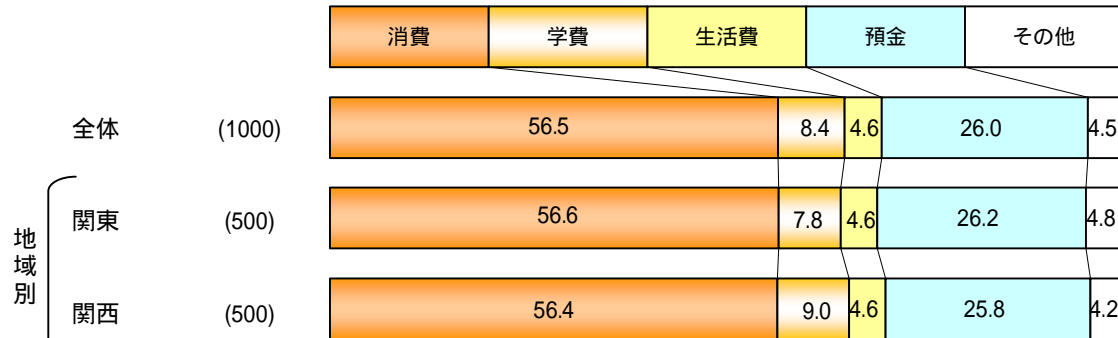
4. 定額給付金を手にしたときの使いみち

直接消費するという中学生・高校生は半数強、その他は預金など堅実な使いみちを考えている。

定額給付金(20,000円)を手にしたときの使いみちを自由回答で調べたところ、『消費する』と回答した人は56.5%である。その内容は『飲食・レジャー』『洋服・ファッション』『趣味・スポーツ用品』『ゲーム機・ソフト』などが多くあげられている。

『預金・貯める』(26.0%)という人も1/4みられ、また『学費』『生活費』にまわすという中学生・高校生も少なくない。

図 自分がもらえる給付金の使いみち



注) 数値は回収数(N)を100とした%

表 自分がもらえる給付金の使いみち(自由回答)

		全体	関東	関西
消費	洋服・ファッション	10.2	9.0	11.4
	CD・DVD	2.6	2.4	2.8
	ゲーム機・ソフト	6.0	7.4	4.6
	書籍・漫画	4.7	4.2	5.2
	パソコン機器	1.2	1.6	0.8
	iPOD等PMP	0.8	0.8	0.8
	その他趣味・スポーツ用品	6.4	6.6	6.2
	趣味	4.8	5.2	4.4
	スポーツ	1.6	1.4	1.8
	ショッピング・買物	3.5	4.6	2.4
	何かものを買う	9.9	9.4	10.4
	飲食・レジャー	11.2	10.6	11.8
	飲食	3.5	2.6	4.4
レジャー	7.7	8.0	7.4	
学費	受験費用・学費・学用品・参考書など	8.4	7.8	9.0
	学費・授業料	4.4	4.6	4.2
	受験料、受験費用	0.9	1.2	0.6
	参考書・文房具・学用品	3.1	2.0	4.2
生活費	小遣い・生活費	4.6	4.6	4.6
	生活費・小遣い	3.7	3.2	4.2
	家計または家を助けるため	0.9	1.4	0.4
預金	預金・貯める	26.0	26.2	25.8
	全額預金	22.1	22.2	22.0
	一部預金	3.9	4.0	3.8
その他	その他	4.5	4.8	4.2
	親に預ける、渡す	1.5	1.2	1.8
	わからない、決めていない	1.9	2.4	1.4
	使わない	0.3	0.6	0.0
	いらない、貰いたくない	0.3	0.6	0.0
	募金・寄付	0.5	0.0	1.0

注) 数値は回収数(N)を100とした%、右端の数値は内訳

【今回調査の設計】

調査エリア： 関西（ 2府4県：大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県）
及び関東（ 1都3県：東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）
調査対象： 中学生・高校生の男女
調査方法： 携帯電話調査
（電通リサーチモバイル調査システムによる）
標本数： 1,000ss回収（関西：500ss、関東：500ss）
調査期間： 2009年2月1日（日）～2月4日（木）

【「KANSAI MARKET EYES(関西マーケット・アイズ)」について】

「関西マーケット・アイズ」は電通リサーチ大阪支社が、関西エリアの生活者の消費動向や意識について独自の視点を持って調査の結果を分析し社会や企業に情報発信していこうとするものです。テーマによっては全国エリアの調査を行うこともありますが、その中心は「関西の市場」に見据えたエリアデータを関西のメディア各社へリリースしてまいります。

【電通リサーチについて】

電通リサーチは、電通の市場調査部門から独立して1967年の設立以来、電通グループ唯一の調査会社としてマーケティングリサーチをビジネスドメインの中心に据え、鮮度の高い生活者情報を収集・分析し顧客にお届けしています。

会社概要

会社名： 株式会社 電通リサーチ
設立： 1967年11月1日
資本金： 3億2,000万円
代表者： 代表取締役社長 野村 清（のむら きよし）
所在地： 東京本社 〒104-8171 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
大阪支社 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-31 京阪堂島ビル
名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄4-15-32 日建住生ビル
HP： <http://www.dentsuresearch.co.jp>